

序文 Preface

第5回天文学史研究会を2016年3月25日（金）と26日（土）に国立天文台コスモス会館会議室で行った。相馬 充（国立天文台）の科学研究費補助金（基盤研究（C）：課題番号 15K05038）から旅費および出版印刷費の補助を行った。

「天文学史研究会」と題するこの研究会は、2006年1月に第1回、2008年12月に第2回、2009年12月に第3回、2011年1月に第4回を開催した。今回はこれらに続く第5回である。歴史的記録を使って現代科学における重要な結果を導くという点に重きを置く「歴史的記録と現代科学」研究会も天文学史研究会とは独立に行っており、それは2006年6月に第1回、2009年3月に第2回、2012年3月に第3回、2014年2月から3月にかけて第4回を開催した。今回の研究会はこれらの研究会から久しぶりに開催したためか、講演希望者が多くなり、講演者の皆様には十分な講演時間を与えられず、話し足りないと感じられた講演者が多かったと思われる。この点、お詫び申し上げる。

今回は韓国から Yong Bok LEE 氏, Hong-Jin YANG 氏, 中国から QU Anjing 氏と MA Liping 氏, インドから Mayank VAHIA 氏, ニュージーランドから Pauline HARRIS 氏, イスラエルから諫早庸一氏を招いて、各国の古代の天文記録や暦等に関する研究結果について講演していただいた。そのため1日目を英語セッションにした。英語での質疑も盛んであった。

初日の座長は大橋由紀夫、野上長俊、Mayank VAHIA、Yong Bok LEE の各氏に、2日目の座長は谷川清隆、岡崎彰、諫早庸一、横塚啓之、林隆之の各氏にお願いした。講演内容も多岐にわたり、質疑も活発に行われ、今回もたいへん有意義な研究会になった。このような研究会の開催にご協力くださった講演者や参加者の皆さんに感謝する。

本研究会開催に当たっては、海外旅費の手続きをすばる室の高本正美氏に、国内旅費の手続きを光赤外研究部の木村弘子氏に、それぞれお世話いただいた。研究会の準備や受付等はこのお二人に加え、すばる室の野口倍美氏にお世話いただいた。集録印刷の手配はすばる室の持永千鶴氏が行ってくださった。お世話くださった方々に感謝する。

研究会世話および集録編集：相馬 充，谷川清隆（国立天文台）